

「みなさまの声」ご紹介

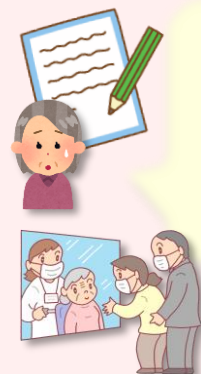
当院では、患者サービス向上のための取組みの1つとして、院内にご意見箱「みなさまの声」を設置しています。患者様や病院に来られた皆様から頂戴した声は、より快適な病院環境づくりのために日々役立てております。診療などに関する事、その他お気づきの点がありましたら、ご遠慮なく投書していただき、ご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。今回は、2022年4月以降にいただいた「みなさまの声」の一部をご紹介します。



面会制限中の対応について



年をとった母だけでは、インターネットでの面会は難しい状況です。1か月に1枚写真を送っていただけると様子が分かって良いかと思うので、そのようなサービスがあったらいいなと思います。



遠方から帰省する家族がいるので、ガラス越しでもよいので、会うことは可能でしょうか。

感染対策の一環として面会制限を継続させて頂いている中で、ご家族・患者様には大変ご不便をおかけしております。ご要望に応じてお写真をお撮りし、ご郵送させて頂くなど、ご家族様が安心いただけるような対応を考えてまいります。病棟における季節ごとのイベント時には、患者様のご様子がわかるような記念撮影をしております。可能な限りご家族様にお届けできるよう対応いたします。

1階の窓の外に人が集まることが懸念されるため、感染対策上、ガラス越しのリハビリ見学も、現在はご遠慮いただいております。ご家族様には、患者様の退院後の栄養・食事指導や介助指導などで必要に応じて来院していただくこともございます。また、患者様のご様子など、ご心配なことがございましたら、ご連絡いただければ可能な限り対応させていただきます。



患者相談窓口

「患者相談窓口」のご案内

当院では、患者様・ご家族様が安心して療養を受けられるよう、「患者相談窓口」を設置しております。疾患に関する医学的なご質問や、生活上及び入院上の不安等のご相談を受け付けております。まずはお電話でお気軽にお問合せください。

【相談窓口担当者】入退院支援室 社会福祉士
【相談時間】月曜日～土曜日 9:00～17:00（日祝日、年末年始を除く）
【設置場所】3階事務所内
【電話番号】042-632-8118(代) 042-632-8154（入退院支援室直通）

医療法人社団永生会 みなみ野病院
〒192-0916 東京都八王子市みなみ野5-30-3
TEL 042-632-8118(代)
TEL 042-632-8154(入院相談)

■企画編集・発行／医療法人社団永生会 みなみ野病院 広報委員会



みなみ野病院

検索



ご自由にお持ちください

はーとふる みなみ野



医療法人社団永生会
みなみ野病院広報誌
2022年 9月 発行
Vol 15
Take Free



〈表紙について〉

医療療養病棟では、8月に「病棟夏祭り」を開催しました。短時間でしたが、しっかり感染対策をした上で、患者様にアトラクションゲームを楽しんでいただきました。食堂や部屋の入口にちょうちんの飾りつけをして、盆踊りのBGMを流し、夏祭りムードを盛り上げました。

院内ギャラリー

7月から8月の季節のディスプレイです。

通所リハ



医療療養病棟



回復期リハ病棟



緩和ケア病棟



通所リハ



医療療養病棟



回復期リハ病棟



緩和ケア病棟



コンテンツ

■院内ギャラリー（7月から8月の季節のディスプレイ）

■特別企画「ポリファーマシーと安全な服薬」

■「みなさまの声」紹介

心身の元気を取り戻すための特別企画

高齢になると病気が増え、飲むくすりの種類も多くなります。日頃から飲んでいくすりをしっかり把握しておくことで、副作用や気になる症状が出た時に備えることができます。今回は、当院薬剤師が「ポリファーマシーと安全な服薬」についてお伝えします。

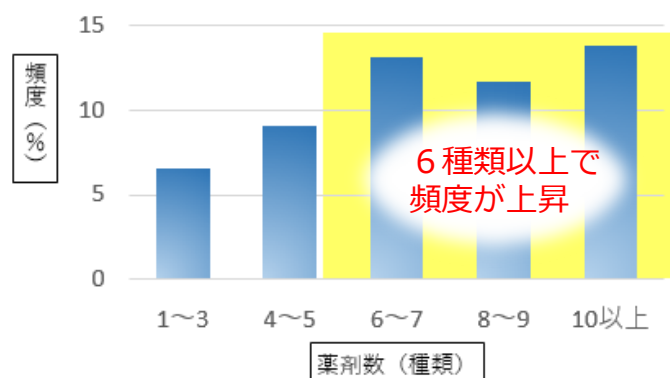


「ポリファーマシー」を知って安全な服薬を！

1. ポリファーマシーとは？

ポリファーマシーとは、「Poly（多くの）」と「Pharmacy（調剤）」からなる「**害のある多剤服用**」を意味する言葉です。単に**服用するくすりの数が多いこと**ではなく、必要とする以上のくすり処方がされていることによって、**有害な事象のリスク増加や、誤った方法での服薬**などの問題につながる状態のことをいいます。

薬剤種類と薬物有害事象の頻度との関係



高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015（日本老年医学会）より引用

「何種類のくすりを併用していたらポリファーマシーに該当するのか」という厳密な定義はありません。しかし、服用するくすりの種類が**6種類以上**になると***薬物有害事象**を起こす人が増えるというデータがあります。

***薬物有害事象**：薬の使用後に発生する有害な症状（薬へのアレルギー反応や、めまいやふらつき、臓器障害などがあります）

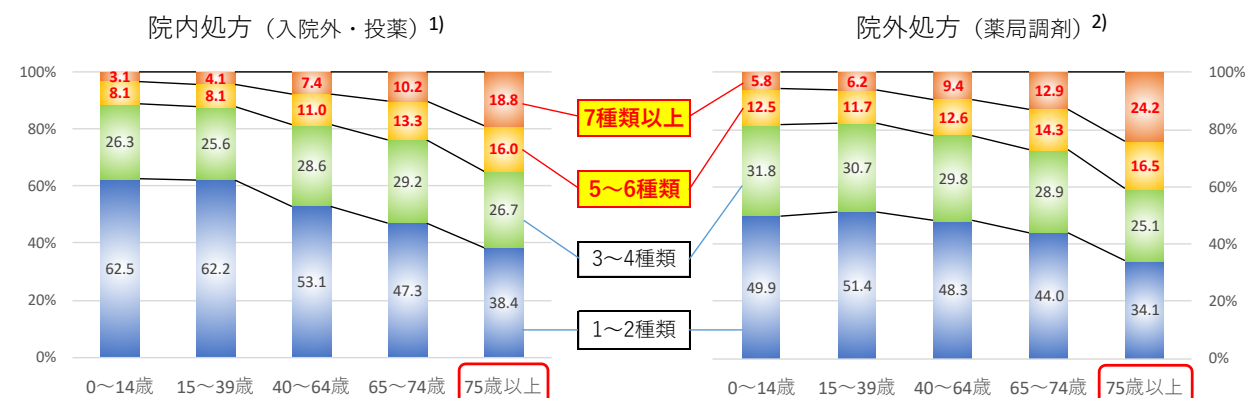


全国の保険薬局では、**75歳以上**の高齢者の**4割が5種類以上**のくすりを処方されています。

2. なぜ、高齢者ではくすりの数が増えるの？

高齢になると、複数の病気を持つ人が増えてきます。病気の数が増え、受診する医療機関が複数になることもくすりの種類が増える原因となります。

年齢階級別・薬剤種類数階級別 構成割合



注：1)「院内処方（入院外・投薬）」は、診療報酬明細書（医科入院外）のうち診療行為「投薬」に薬剤の出現する明細書（「処方箋料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く）を集計の対象としている。

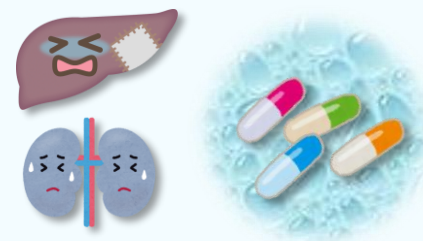
また、診療行為「投薬」における薬剤の種類数階級で区分している。

2)「院外処方（薬局調剤）」は、調剤報酬明細書のうち薬剤の出現する明細書を集計の対象としている。

（厚生労働省 令和2年社会医療診療行為別統計より）

3. なぜ、高齢者では薬物有害事象・副作用が起こりやすいの？

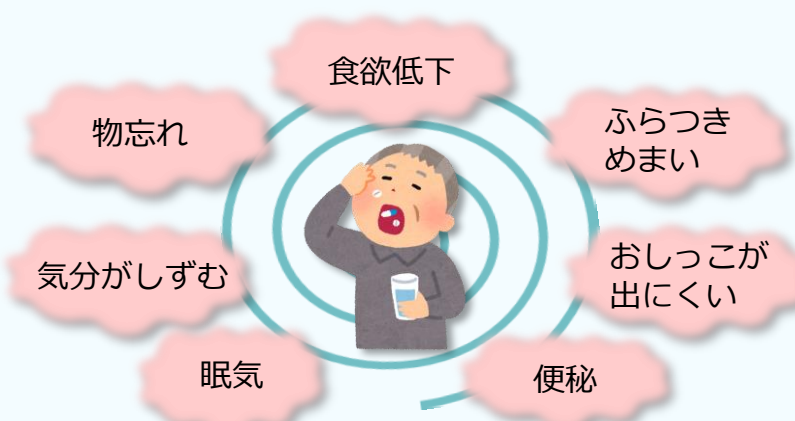
高齢になると、肝臓や腎臓の働きが弱くなり、くすりを分解したり、体の外に排泄したりするのに時間がかかるようになります。また、くすりの数が増えると、くすり同士が相互に影響し合うこともあります。そのため、くすりが効きすぎてしまったり、効かなかったり、副作用が出やすくなったりすることがあります。



4. ポリファーマシー（多剤併用）による体調の悪化を避けるには

「何か変だな」「いつもと違う」と感じたら

くすりを飲んでいて、次のような症状が気になることはありませんか？くすりが追加されたり、変わったりした後は、特に注意しましょう。



気になる症状があっても、勝手にくすりをやめたり、減らしたりするのはよくありません。くすりが多いからといって、必ず減らすべきということではありません。

必ず
医師・薬剤師
に相談



くすりによっては、急にやめると症状が悪化したり、思わぬ副作用が出ることがあります。**必ず、医師や薬剤師に相談しましょう。**

相談する時は具体的にどうすればいいの？

■使っているくすりは、必ず全部伝えましょう。くすり以外で毎日飲んでいる健康食品やサプリメントがある場合は、その情報も伝えましょう。



■いつ頃から、どのような症状が出てきたのか、気になる症状についてメモしておきましょう。

日付：
症状：



日頃から注意しておくことは？

■日頃から、かかりつけの医師や薬剤師を持って、処方されているくすりの情報を把握してもらっておくのが安心です。



■自分の処方されているくすりがわかるように、お薬手帳を持ちましょう。お薬手帳は1冊にまとめておきましょう。



引用文献：「あなたのくすり いくつ飲んでいますか？」

監修：東京大学大学院医学系研究科老年病学教授 秋下雅弘、厚生労働省

制作：一般社団法人 くすりの適正使用協議会、日本製薬工業協会